

甲南大学法科大学院入学試験問題について

2018年度秋入学・2019年度春入学
一般入学試験（A日程・7月8日分）

試験科目：民事訴訟法

1. 出題趣旨

設問1は、既判力の客観的範囲についての理解を問う問題である。民事訴訟法114条1項と2項の趣旨を正確に説明できなければならない。

設問2は、**弁論の併合と分離の意義に触れたうえで、民事訴訟法152条の趣旨に言及することを求めるものである。**

設問3は、証拠保全手続の目的その役割についてセ党名を求めるものである。

2. 採点実感

設問1については、そもそも既判力の定義を正確に記述していない答案があった。また判決主文で示された判断にのみ既判力が生じる原則の根拠を正確に説明できていない答案が多かった。

弁論の併合と分離については、それぞれどのような手続なのかを全く瀬戸明していない答案があった。

証拠保全手続が証拠開示の機能を有することについて全く言及していなかった。

3. 学習方法

民事訴訟法の基本書を読んだことがないのではないかと疑わせる答案があったので、最低限、基本書を2回以上通読して、基本概念を正確に理解するようにしてほしい。